

スマートシニアライフ事業とは？(概要)

目的

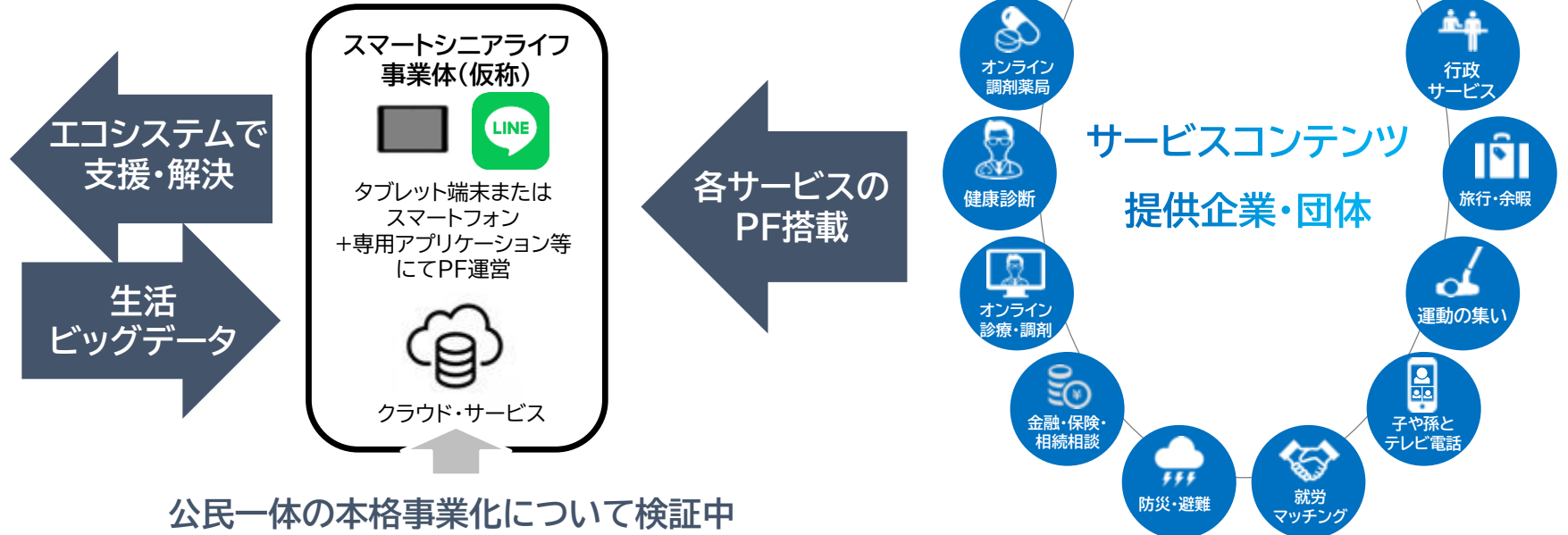
高齢者がいきいきと健康で便利に生活できるよう、高齢者の生活を支援するサービスプラットフォーム(PF)を公民連携で構築し、タブレット等のデジタル端末を活用することにより、行政と民間の様々なサービスをワンストップで提供する実証事業を実施中。
実証にてデータや利用者の声を収集し、事業化【「スマートシニアライフ事業体(仮称)」の設立】について検討していく。

狙い

- 生活不活発病の削減による健康寿命延伸
- 生きがい(地域社会や家族とのつながり)提供
- 不自由なく暮らせる利便性あるサービス
- 健康支援による国費(医療費・介護費)削減
- 経済効果に繋げる仕組み(高齢者個人資産1,300兆円の活性化)

概要

シニア層の課題



公民一体の本格事業化について検証中

スマートシニアライフ実証事業(第1期)の概要



実証エリア

堺市南区(泉北ニュータウンを含む全域)、河内長野市(南花台)
大阪狭山市(狭山ニュータウン)



実証期間

令和4年2月1日～令和4年9月30日(一部延長ユーザあり)



実証対象

対象エリアに居住する50歳以上の住民
本事業専用タブレットを約850名に貸出



貸出端末

画面サイズ10インチ
データ通信用SIMカード搭載済(4G/LTE・音声通話不可)
通信容量3GB/月(容量超過後は通信速度低下)
カメラ・マイク・スピーカー搭載済
利用可能なアプリケーションは順次追加
MDMツールにより、アプリ利用制限など遠隔管理が可能



第1期実証～参加者募集から端末配布まで～

参加者募集

タブレット配布総数 **858** 台

端末配布説明会の開催

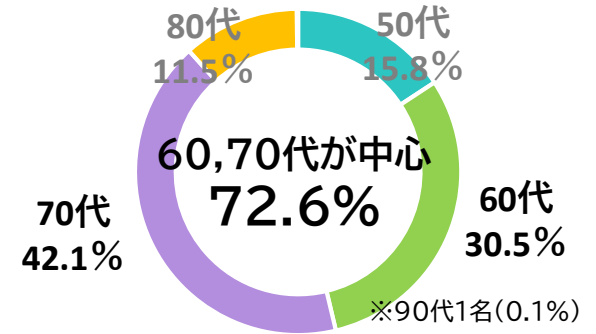
説明会場: 申込者の多い堺市を中心に、全43回開催。
実施内容: 府・企業の職員が講師となり、タブレットの設定や使い方等を説明
広報媒体: 市広報紙、コミュニティ誌、自治会を通じたお声がけ、府HPなど
申込方法: オンライン57%、郵送43%



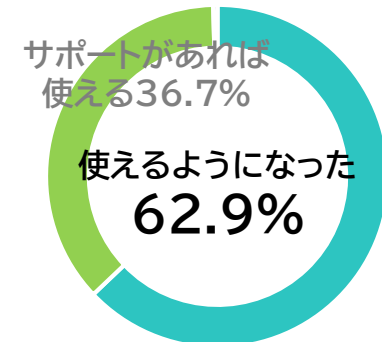
会場前方で全体説明を行い、
各テーブルでサポート講師がフォロー

アンケートの実施

Q.参加者構成割合



Q.タブレットは使えるようになったか



第1期実証～利用者活性化施策フォローアップ説明会～



開催実績

全**25**回開催 **447**名が参加 満足度**70%**超



フォローアップ説明会内容

説明会場:申込者の多い堺市を中心に開催。

実施内容:(1)操作方法等の使い方を聞く相談会

(2)各社のコンテンツを紹介・実演するイベント

イベントは個別ブース、講義形式で検証。相談会は個別ブースにて随時開催。

広報媒体:ハガキ、メール



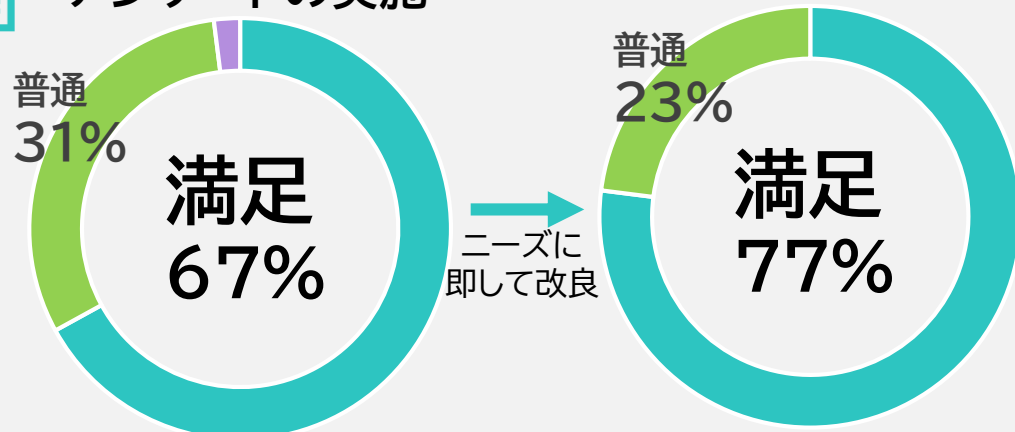
(1)相談会



(2)イベントブース

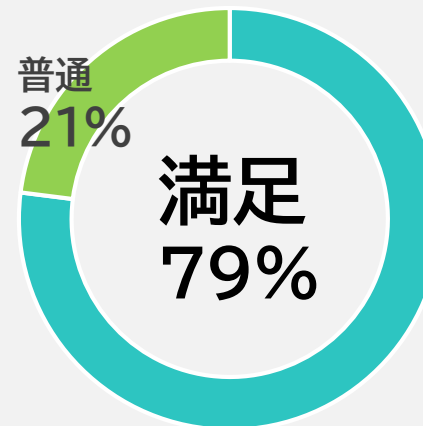


アンケートの実施



イベント満足度(個別ブース)

イベント満足度(講義)



相談会満足度

タブレット・サービスの説明	212
音楽体操教室	103
オンライン体験教室	84
VR旅行体験	74
オンライン旅行体験	73

ニーズの高いコンテンツ

第1期実証～利用者の声～



基本がわかってないのでサービス内容や使い方を教えて貰える時間を確保して欲しい！

イベントは非常に楽しかった♡相談会も個人レッスンだったので質問できた(^^)

楽しさが体験できるようなイベントがあればいい！オンライン教室等の費用や、注意なども教えて欲しい。



普段の生活を便利に出来る仕組みを提供して欲しかった。

買い物代行は各駅単位で対応することや、ポータルサイトは自治会の回覧板や行政の情報発信、天気情報を表示する等工夫して欲しかった。



シニア向けに登録作業等の簡素化が必要！

このサービスを通じて老後が楽しく暮らせる人が増えるよう今後に期待。

大阪万博にも何らかの形でこの事業を通して参加できれば楽しみ(^^)♪



使えるコンテンツを充実させてほしい。

必要なのはシニアがいち早くネット社会に馴染めること。サービス以外にも自由にアクセス出来るよう利用制限なしの活用を考えてほしかった。行政サービスについても充実を期待している。



シニア層の課題を把握しながら各企業、大阪府、協議会での**創意工夫が必要**



サービスの充実、システムの簡素化等、**高齢者が「サービスを作り上げる」視点も重要**

第1期実証～まとめ～

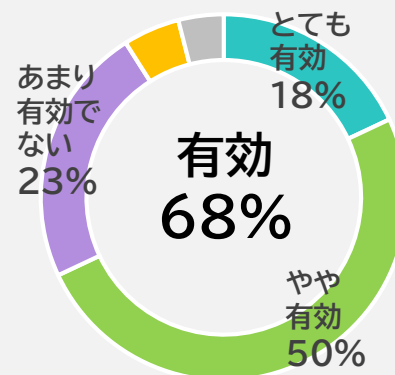
第1期実証目標

- ・専用タブレットにより利用者の声を集める。
- ・収支/事業計画を策定し、事業化可能性を検証する。

第1期実証結果

- ・利用者のニーズを把握した。
- ・高齢者がインターネットを活用するにあたり、本サービスは有効なアプローチ手段と言える。
- ・第1期利用者の卒業プランとして、継続的に実証へご協力いただくことを目的にLINEサービスを開設した。
- ・事業化可能性についての検証は未達。

Q.本サービスがシニアのインターネットを通じたサービス活用促進に有効か。



Q.各サービス分野の利用回数(タップ数)

行政サービス	5,004
まいにち健康	3,931
文化エンタメ	3,761

Q.よく使ったサービスは?(人)

行政サービス	87
Vitality(まいにち健康)	78
おでかけVR(まいにち健康)	46

Q. 今後増やしてほしいサービスは?(人)

防災情報・ハザードマップ	133
ヘルスケア・健康管理	132
行政サービス・電子申請	122

第2期実証目標

- ・コンテンツ拡充・進化によるサービス性の向上。
- ・収支/事業計画を策定し、事業化可能性を検証する。
- ・LINE、専用タブレットにより利用者のニーズ・挙動について調査する。